

# 北方四島交流事業理解促進セミナー (札幌大学) 開催結果報告書

(目次)

<b>I</b>	<b>開催概要</b> .....	<b>1</b>
<b>II</b>	<b>講話要旨</b> .....	<b>3</b>
1	テーマ：北方領土問題と四島交流 講師：北海道北方領土対策本部 伊藤 公一	
2	テーマ：父のふるさとへの思いと四島交流 講師：元島民2世 角谷 豊	
3	テーマ：四島交流事業の現状 講師：北方四島交流北海道推進委員会事務局 工藤 伸子	
4	テーマ：通訳者からみた四島交流 講師：ロシア語通訳者 大島 剛	
<b>III</b>	<b>アンケート結果</b> .....	<b>7</b>
<b>IV</b>	<b>資料</b> .....	<b>12</b>
1	広報資料 (チラシ (開催要領を含む))	
2	講話録・講話資料 (略)	

令和6年3月

(公社)北方領土復帰期成同盟  
(北方四島交流北海道推進委員会)

# I 開催概要

## 1 目的

北方四島交流事業の理解促進を図る一環として、従前から交流に参加・協力を頂いてきた札幌大学において、大学生等に北方領土問題や北方四島交流に対する関心を持ち続け理解を深めて頂くため、セミナーのほか、併せて写真展示を行った。

## 2 主催 (公社)北方領土復帰期成同盟 (北方四島交流北海道推進委員会)

協力 札幌大学・ロシア文化センター

※札幌大学学生のロシア文化ラボ КОТИК (コーチク) の協力

## 3 日時 令和5年10月26日(木)・10月27日(金) 13:00~14:30

## 4 場所 札幌大学 新棟 SUcole (スコーレ) 1階 8102教室

## 5 テーマ 「様々な視点から語る北方四島交流」

## 6 講話【テーマ及び講師】

事業に参加した元島民2世やロシア語通訳者等の方々に、各々の立場・視点から実体験を踏まえた講話等を頂き、参加者との質疑応答・意見交換を行った。

(1日目(10月26日)13:00~14:30)

- ・北方領土問題と四島交流【北海道北方領土対策本部 伊藤 公一】
- ・父のふるさとへの思いと四島交流【元島民2世 角谷 豊】

(2日目(10月27日)13:00~14:30)

- ・四島交流事業の現状【北方四島交流北海道推進委員会事務局 工藤 伸子】
- ・通訳者からみた四島交流【ロシア語通訳者 大島 剛】

## 7 参加対象及び参加者数 札幌大学学生等(一般の方も可)を対象に、延べ71名参加 (10月26日37名、10月27日34名)

## 8 写真展示

(1) 日時 令和5年10月24日(火)~27日(金)(於:札幌大学 新棟 SUcole 1階通路)

(2) これまでの記録写真を展示し四島交流の様子等を紹介した。  
(展示写真:70枚(A3判)、プチガイド、動画上映)

(3) 展示写真観覧者:135名

(内訳:10/24:24名、10/25:40名、10/26:37名、10/27:34名)

## 9 総括・所感

参加者から「北方領土問題について正しく認識することができた。」、「四島交流について知ることができて良かった。」、元島民二世の方の四島への思いや交流の必要性について「話が具体的に分かりやすかった。」、四島交流に携わった通訳者から四島交流の歴史やロシア人住民の変化等について「実体験に基づく話を聞くことができ、有意義だった。」、「多角的に四島交流について知ることができ、有意義だった。」との声が寄せられ、主催者としては、当初の目的どおり若年層を中心とした参加者の方々に北方領土問題や四島交流事業の目的・役割について理解を深めていただけたものと考えている。

## (セミナーの様子)



セミナー1日目。左：北方領土対策本部・伊藤公一課長補佐。右：元島民二世・角谷豊氏。



セミナー2日目。左：推進委員会・工藤専門員。右：ロシア語通訳者・大島剛氏。



左：質問する学生。 右：札幌大学・山田隆教授あいさつ。



写真展示準備（学生有志の協力により、スムーズに展示作業を終えられた。）



写真観覧の様子

## II 講話要旨（講話の順による）

### 1 テーマ：北方領土問題と四島交流

講師：北海道北方領土対策本部 課長補佐 伊藤 公一

#### 【講話要旨】（講話資料を踏まえ事務局で整理）

##### （北方領土問題）

・歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島から成る北方領土（北方四島）は、歴史上、一度も外国の領土となることがない日本固有の領土であるが、現在、ロシア連邦により不法占拠されており、我が国はその返還を求めている。これが北方領土問題。

・日本政府は「北方四島の帰属の問題を解決して平和条約を締結する」という基本方針の下、ロシアとの交渉を進めている。

##### （四島交流の位置づけ）

・北方領土問題の解決に向け、外交交渉はもとより、経済・文化など様々な分野での協力・交流や四島への訪問、国民世論の啓発などの取組が行われている。

・四島を訪問する枠組み（北方四島交流等事業）には、「北方墓参」「自由訪問」「北方四島交流事業（ビザなし交流）」の3つがある。

・ビザなし交流は、日本人と四島在住ロシア人との相互理解増進を図り、領土問題解決に寄与することを目的に、スポーツ、文化、対話などを通じた交流が平成4年から行われている。

##### （現状）

・北方四島交流等事業は、新型コロナウイルスやウクライナ情勢の影響により、2020年以降、実施されていない。現在、日露関係は厳しい状況にあるが、日本政府は、この事業の再開を今後の日露関係の中でも最優先事項の一つとして、ロシア側に再開を求めており、この事業はそれだけ重要であると言える。

・北方四島交流等事業の早期再開が第一ではあるが、実施が見通せない間、高齢となる元島民の「せめて、島の近くで慰霊がしたい」との思いに応えるため、洋上慰霊を実施した。

##### （道の取組み）

・返還要求運動の取組みを紹介。政府の外交交渉を後押しし、国民世論を形成するため、署名活動、元島民の語り部、ポスターコンテスト等に取り組んでいる。

・若い世代からのメッセージは多くの人に広く共感を与え、元島民の励みにもなる。北方領土問題について正しい認識を持ち、返還要求運動への協力をお願いしたい。

##### （質疑応答）

Q：道と島側とで現在、交流や連絡等はあるか。（団体職員）

A：道として独自のルートはないが、個人間で連絡を取り合う人がいることは聞いている。

Q：デジタル署名でも国の方に請願として届けられるのか。（大学生）

A：北方領土問題に関してデジタル署名はまだ採用していない。

Q：政府の基本方針で「実際の返還の時期等については柔軟に対応する」とあるが、具体的にどのような対応になるのか。（大学生）

A：具体的なものはないが、四島交流の中で「今住んでいるロシア人の人権もちゃんと尊重する。」と不安を解消し、信頼関係を築こうとしている状況。

## 2 テーマ：父のふるさとへの思いと四島交流

講師：元島民2世（択捉島） 角谷 豊

### 【講話要旨】（講話資料を踏まえ事務局で整理）

#### （自己紹介）

- ・私の父は択捉島留別村字内保に生まれ、21歳頃まで島で暮らしていた。
- ・四島の中でも終戦当時の場所や環境等によって元島民のロシア人に対する感情には差があり、語り部の話も違うので、本日話すことは私なりの視点に立ったもの。（動画の上映：「北方領土シミュレーション飛行」によって四島を紹介。）
- ・強制送還後、父は、故郷の内保と同規模の知り合いが殆どいない小さな町に住む。父は島の暮らしが楽しかったと語り過ぎたため、家族は飽きて聞き流してしまった。今になって、島の色々な思い出、苦労話等が聞ければ良かったと後悔している。
- ・父は年に一度の元島民の会への参加を楽しみにしていた。自分は2004年から父の付き添いとして参加、その後事務局として会の活動に携わる。

#### （故郷訪問の感想）

- ・四島へは2000年から墓参・自由訪問に15回、四島交流には2014年に一度参加。四島へ行き、最初に印象づけられたのが、知床の雄大さがそのまま広がったような、手つかずの島の自然。
- ・一方では、町並みのロシア化～日本の建物の崩壊、旧市街の草原化、日本人墓地の消失。特に問題なのは自然破壊～廃船や故障車両、発電用燃料タンクの放置、ゴミの堆積、生活排水の放出、水産資源の乱獲。

#### （ロシア人住民との交流への参加）

- ・日本人の中には「人の土地に勝手に住んでいて許せない。」「ロシア人の顔を見ただけで憎しみが沸く。」「交流なんてする必要はない。」などと敵対的な思いを持つ方がいる。そういう中で交流をしようと考えたきっかけは4つある。
- ・きっかけ①；ロシア人住民から思いがけず歓迎やもてなしを受ける機会があった。
- ・きっかけ②；ロシア人がどんな思いで交流に参加しているのか知りたくなった。元島民出演のドキュメンタリー映画を観て「故郷を守るためには、今住んでいるロシア人に思いを伝えなくてはいけない、交流は必要。」というメッセージに思いを同じくした。
- ・きっかけ③；ロシア人住民と話してみたいと思っていたタイミングで、元島民からロシア語教室に誘われて通い始めた。
- ・きっかけ④；帰り船で日本語研修のため札幌に滞在するロシア人住民と出会い、交流するようになった。2015年からは、日本語研修での交流（土曜プログラム）の企画・実行に携わるようになった。

#### （領土問題解決への取組み）

- ・一緒に交流をする中で、元島民の後継者仲間の間でも「交流など必要ない。」と言っていた方が「やはり交流は必要。」と思いを換え、交流の必要性を共有。
- ・この他、領土解決に係るものでは、署名活動や語り部による啓発活動、後継者の育成にも取り組んでいる。
- ・次の世代の方には、対面の交流が困難であればSNS等を活用し、交流の必要性についての情報発信やオンライン交流、そして領土問題が忘れられないよう受け継ぎ、仲間を作って伝えて行ってほしい。

（質疑なし）

### 3 テーマ：四島交流事業の現状

講師：北方四島交流北海道推進委員会 専門員 工藤 伸子

#### 【講話要旨】（講話資料を踏まえ事務局で整理）

##### （自己紹介）

・札幌大学に入学、1年生の夏シベリア鉄道でノボシビルスクへ。大学3年時に大学の制度を利用してモスクワ大学文学部に留学。卒業後、貿易・水産・小中学校でロシア語を使った仕事をし、2015年、北方四島交流北海道推進委員会に入社。

##### （四島交流事業の概要）

・北方四島交流事業とは、日ロ政府間で作った枠組みに基づいて、日本人と島に暮らすロシア人のお互いの理解を進め、領土問題の解決につなげるために行っている事業。

・ゴルバチョフ大統領からの提案（1991年）があつて枠組みが設定され、1992年に北方四島交流がスタートした。

・北方四島への訪問は、四島交流の他、自由訪問、北方墓参の枠組みがある。

・また、事業実施のために、前年の反省や課題、次年度計画について実務者レベルで意見交換、調整（代表者間協議）を行う。

・訪問事業では、ロシア人住民との意見交換会・交流会やホームビジットなどを行う。（具体例で説明。）受入事業では、文化・スポーツ交流や意見交換などを行う。（具体例で説明。）

##### （札幌大学との関わり）

・札幌大学との関わりは、1997年のロシア人訪問団による大学視察から始まり、大学生の訪問事業参加、通訳の補助業務、市街地案内や意見交換会等交流行事への参加、日本語研修（スピーチコンテストなど）での協力など。また、札幌大学には受入事業で、合同授業、スポーツ体験、学食体験、意見交換会等、様々な交流プログラムを行っていただいた。

・四島交流により、当方実施の事業でこれまで13,669人の日本人・ロシア人住民が相互訪問。訪問と交流の積み重ねにより、誤解や不安が払拭され、信頼関係に基づく深い交流が出来、相互理解の増進が着実に図られてきた。四島在住ロシア人の発言例紹介。

##### （四島交流を取り巻く状況）

・残念ながら、2020年以降事業が実施できず、日露関係は厳しい状況にあるが、政府の基本方針に変わりはなく、事業再開は今後の日ロ関係の中でも最優先事項。

・四島側にも現状に心を痛め、往来が再開されるのを待っている人達がいる。会う機会がなくなると相互不信が増していくが、建設的ではない。そういった意味でもこの事業には大事な意味があり、話し合う必要があることが関係改善のきっかけになり得ると思っている。

・私共としては、情勢が改善された際に事業をいち早く再開できるよう、関係機関と連携し対処しているところ。

・今日参加いただいた皆様には、これからも北方領土問題やビザなし交流に関心を持っていただき、今後もこのような機会にはご参加いただきたい。

##### （質疑応答）

Q：文化交流の中で一番ロシア人住民に好評だったものは何か。（大学生）

A：島の人達は好奇心旺盛で、何にでも興味を持っており、何でも喜んでいた。茶道、生け花、スポーツ交流、踊り、太鼓等の伝統芸能もとても好評だった。

#### 4 テーマ：通訳者からみた四島交流

講師：ロシア語通訳者 大島 剛

##### 【講話要旨】（講話資料を踏まえ事務局で整理）

###### （自己紹介）

・（現）東京ロシア語学院でロシア語を学び、20歳から通訳を始める。6年間のソ連プラント現場での技術通訳を経て一般教養の必要性を痛感し、27歳で札幌大学入学。大学3年時に北海道知事の通訳に抜擢され、以来4代に亘って知事通訳を担当。

###### （四島交流通訳の業務）

・四島交流には1992年の事業立ち上げの段階から携わってきた。交流開始に向け、様々な関係団体名のロシア語の定訳作りから始めた。多くの通訳者が携わるので、四島の呼称や地名の扱い、用語の統一のため「通訳者のための四島交流ハンドブック」の作成も始めた。

・1992年の開始当時、国際電話は予約して2、3日待つのが当たり前。書簡の送付手段はテレックス。そのような中で四島とのやり取りを行った。

・四島交流のうち、受入事業では、準備段階の書簡・資料の翻訳、事業開始後は施設見学や文化交流、意見交換会、交流会、記者会見の通訳と様々。これに求められる通訳者のレベルも、ガイドのようなものから、いわゆる会議通訳、同時通訳など様々。

・訪問事業では、受入と同様の業務に加え、船舶無線、四島側当局への対応等がある。必要な知識と語彙は、海、気象、領土問題、教育、水産加工、教会他、多岐にわたる。

###### （四島交流通訳の特色等）

・特殊な事情を反映し、双方の法的立場を損なわないよう気を付けて表現。例えば、地名の問題や、団員氏名をローマ字からキリル文字に変換する際の表記の統一など。

・国際プロトコール（儀礼）では双方が自前の通訳者を使うが、ビザなし交流は日本側の通訳者が双方向を通訳、双方に信頼される中立的通訳が必要とされる。こうした通訳者の確保にあたり、通訳者に必要な資質と必要員数、通訳料金などについて業務依頼者との調整など、当時は大変苦労した。

###### （ロシア人住民の意識の変化）

・1993年横路知事の3島訪問時は住民が多数集まり、真剣に知事の話聞いた。「日本の行政府で雇ってもらえるか。」と知事に聞いてきた、そんな時代であった。

・最初の時期はロシア人も本当にピリピリしていた。日本人へのサムライと切腹のイメージから、経済大国日本への憧れ、友好ムード、日本に対する期待へと変わった。2000年以降「クリル発展計画」で巨額の投資が行われるようになると、今度はモスクワへの期待が増大し、心が離れていくのを感じた。

・激動のロシア。明日何が起こるかわからないのがロシア。こんな時代だからこそ一生懸命ロシア語を勉強し、新しい時代が来た時には良い通訳をして頑張してほしい。

###### （質疑応答）

Q：事業中ヒヤリとしたこと。（大学生）

A：洋上で警備当局に呼びかけられすぐ気付かなかったこと。

Q：訳していて単語が出ない時。（大学生）

A：わかる言葉で説明する、あるいは辞書を引く。

Q：頭の中にある単語数。（大学生）

A：わからないが、あらゆる分野の単語が必要とされる。

Q：何故ロシア語を勉強したのか。（団体職員）

A：最初の英語の先生との相性が悪かったため。

### Ⅲ アンケート結果

#### 1 アンケート概要

##### (1)目的

セミナー参加者に対して年齢、職業や、参加のきっかけ、感想、開催方法などについてお聞きし、今後の取組の参考とするために、アンケート調査を実施した。

##### (2)調査方法

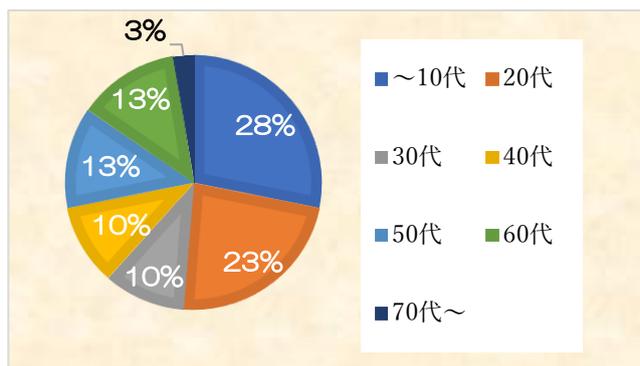
セミナー会場で調査票を配布・回収した。(設問は選択方式(一部複数回答あり)、記述式)

##### (3)回収状況

参加者：述べ71名中、39名が提出(回収)。(回収率：約71%=回収39/対象参加者55)

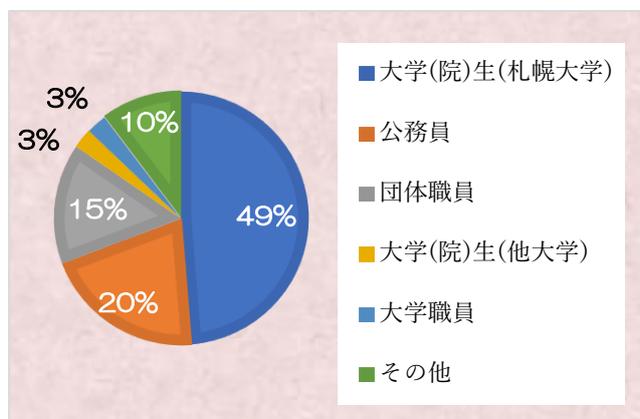
#### 2 調査結果

##### Q1 参加者の年齢



10代(28%)、20代(23%)が多く、全体の約半数(51%)を占めた。

##### Q2 参加者の職業等

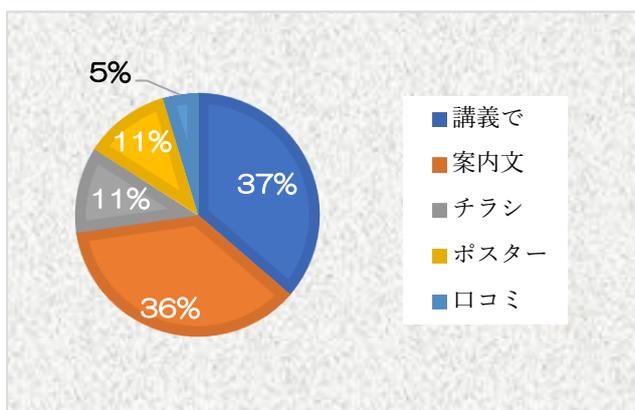


参加者は学生(52%)が多く、次いで多かったのは公務員(20%)、団体職員(15%) (広義の「返還要求運動関係者」)だった。

他大学から参加の学生もいた。(3%、1名)

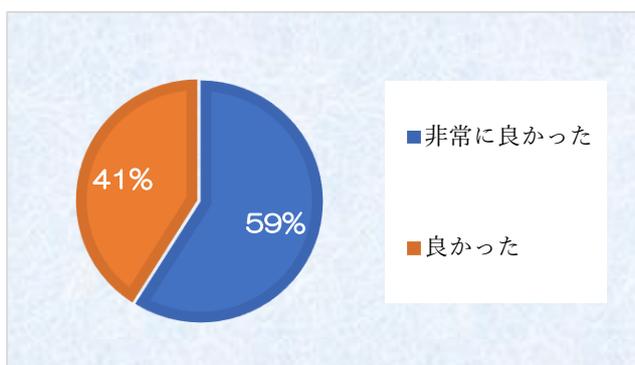
また、元島民等は6%(2名)だった。

### Q3 セミナーを知ったきっかけ



大学の講義で知った人(37%)が多く、次いで多かったのが案内文(36%)によるものだった。

### Q4 セミナーの感想



「非常に良かった」、「良かった」で100%を占めた。

#### ■ 「非常に良かった」を選んだ理由

##### (講義内容について)

元島民2世の話が具体的で分かりやすかった。(40代・公務員)
専門家ならではの話が聞けておもしろかった。(30代・公務員)
通訳者の話を聞いたのがとても貴重な経験だと思った。(10代・学生)
体験談が多く、内容も濃いセミナーで楽しかった。(10代・学生)
実体験に基づいていてとても参考になった。(40代・団体職員)
通訳者の生の声を聴くことができ、貴重な知識を得たように思う。(60代・団体職員)
今まで詳しく知らなかった通訳者達の活動をたくさん知ることができた。(10代・学生)
角谷さんの講話が良かった。領対本部伊藤さんの行政の側からのお話が良かった。(60代・団体職員)
道の伊藤氏のお話も聞けて良かった。仲間の語り部の話もなかなか聞くチャンスがなかったので良かった。(50代・教員)

##### (北方領土問題・四島交流について)

普段は聞くことのできない北方領土の取組みや現状について知ることができて良かった。(10代・学生)
北方領土問題、特にビザなし交流について詳しいことが聞けた。(10代・学生)
現状を知ることができ、普段聞けない通訳の話聞いた。(10代・学生)
四島交流の歴史が理解できた。大島通訳の話が大変おもしろかった。(30代・団体職員)
角谷氏のプレゼンが非常に分かりやすく、現在の択捉島をはじめ北方四島の現状を知ることができ、新たな知識を身に付けることができた。(20代・学生)

(全体について)
講師陣が道領対、元島民 2 世、推進委員会、通訳とバラエティーに富んだ人選で、多角的に北方領土交流について知ることが出来てとても有意義だった。あまり良くなかった点としては、学生さんの参加が少なかった… (60 代・団体職員)
過去の自分の経験の話を思い出すとともに、現場で活躍する OB・OG の貴重な話を聞いた。(20 代・公務員)
卒業生の話ということで、特にロシア語を学ぶ学生に有意義だった。ロシア関連のテーマのセミナーは少ないが、北方領土についての理解が深まり良かった。(50 代・大学職員)

■ 「良かった」を選んだ理由

(講義内容について)
あまり知らなかった話を聞くことができた。(20 代・学生)
話が上手でわかりやすかった。(60 代・団体職員)
学生の考えを聞くことができた。(60 代・公務員)
リアルなお話を聞くことができて勉強になった。(30 代・学生)
現地に行った事がある方の話にはリアリティがある。(50 代・公務員)

(北方領土問題・四島交流について)
領土問題を正しく認識できた。(20 代・学生)
これまでの北方四島との交流で、どのような事が行われていたのか、どんな苦勞があって今の現状があるのか知ることが出来た。(10 代・学生)

(写真展示について)
現地の様子を写真付きで見ることができ、とても参考になった。(30 代・団体職員)
交流の写真を見ることができた。(20 代・学生)

(セミナー全体について)
普段聞けない貴重なお話をこのような形で聞くことができた。「北方領土問題がある」ことは知っていたが、北方領土に近い地域の取組み、今後取組んでいくべき活動などを細かく知ることができた。(20 代・学生)
前段で北方領土の概要を扱い、その上で交流事業に参加した方からの講話を聞くという構成は、学生がこの事業を理解する上で助けになったと思う。(50 代・団体職員)

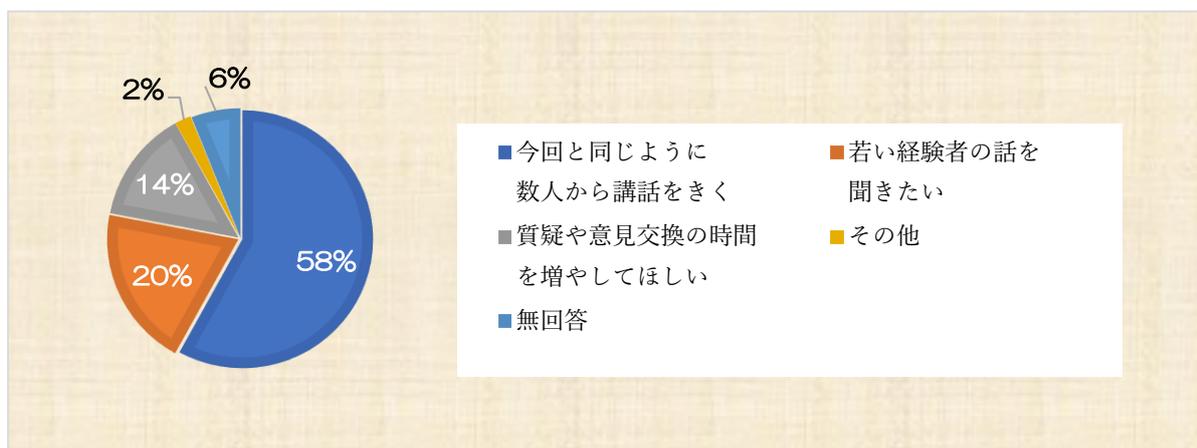
Q 5 他に取り上げてほしいテーマ (演題等) や内容 (自由記載)

学生からは、四島内の状況やロシア人の側からの話も聞きたいという意見があった。

(テーマについて)
今後のロシアとの交流について考えられる施策。若い世代の返還運動をどのように盛り上げていくか。(30 代・団体職員)
学生対象であれば、一般的な情勢説明、具体的なロシアまたはロシア人との良くも悪くも付き合い方などをセミナーで取り上げたら良いと思う。(60 代・団体職員)
現地の固有の動物について。(20 代・学生)
若い人が興味を持つ内容。(50 代・公務員)
今の北方四島の FSB の動きや政治の動きをもっと深く知りたい。(10 代・学生)

(講師について)
今回同様、語り部の方のお話をまた聞きたい。北方領土対策本部の方の講話も基礎知識を得るために必要であると感じた。(30代・団体職員)
ロシア人で四島に縁のない人の話も聞きたい。ロシアでは四島についてこう教えられる、こんなイメージがある、どうしたい、等。日本人・ロシア人共に、四島に縁のない人でもセミナーで話す事で、両国で四島に対する知見を深め考えるきっかけになるのではないか。(10代・学生)
(対象とするセミナー参加者について)
北方四島に暮らしているロシア人の意見も聞きたいと思った。(20代・学生)
学生と元島民、後継者とのディスカッションもおもしろいと思う。教育関係者(小・中学校)に向けたセミナーが必要だと感じている。(50代・教員)
北方領土内のロシア人との交流。(10代・学生)
(その他の要望)
もっと映像を見たい。(30代・学生)

## Q6 今後のセミナーの開催方法



「今回と同じように数人から講話を聞きたい」という意見が半数以上(58%)、次いで「若い経験者の話を聞きたい」という意見(20%)が多かった。

(その他、セミナー開催に関する要望)
経験のない人の話も聞きたい。(10代・学生)
動画の音量を下げしてほしい。(10代・学生)

## Q7 その他感想(自由記載)

(北方領土問題・四島交流事業について)
今回のセミナーで四島について考えるきっかけができたような気がする。署名活動があることを初めて知った。機会があれば署名したい。(10代・学生)
ビザなし交流について知らないことばかりだったので知れて良かった。ありがとうございます。(10代・学生)
埼玉出身の私は道民や元島民に比べ四島の知識がとても少ないと感じた。(10代・学生)

(セミナーについて)
次のセミナーがあればぜひ聞きたい。特に通訳関連の話を詳しく聞きたいと思う。(10代・学生)
1時間半では短すぎると思った。質疑応答がもっとあれば、学生達の関心も更に深まったと思う。(60代・団体職員)
「四島交流事業への理解の促進」という目的を考えると、事業参加者からの講話の内容を「ビザなし交流」に絞っても良かったかと思う。大島通訳の話は大変興味深く、話術も巧みで引き込まれた。(50代・団体職員)
元島民2世のお話を伺うことはなかなかなかったので、今回のセミナーは非常に貴重な経験になった。(20代・学生)
普段聞けない話が聞けて良かった。(10代・学生)
角谷さんの講話をリクエストしたい。(60代・団体職員)
コロナ明けでのセミナーであり、企画も大変良かったと思う。予算等もあるだろうが、継続的にまた、他地域での開催を期待している。(60代・団体職員)
とても参考になった。感謝する。(30代・団体職員)
運営等に感謝する。(50代・教員)

北方四島交流事業理解促進セミナーin 札幌大学  
～様々な視点から語る北方四島交流～



北方四島のこと  
知ってみませんか？



10月24日(火)～10月27日(金)

・四島交流の写真の展示  
(札幌大学での交流を含む)

2023年10月26日(木)・27日(金)

26日(木) 13:00-14:30

- ・北方領土問題と四島交流  
(道庁北方領土対策本部職員)
- ・父のふるさとへの思いと四島交流  
(元島民2世)

27日(金) 13:00-14:30

- ・四島交流の現状  
(道推進委員会職員)
- ・通訳者からみた四島交流  
(ロシア語通訳者)

【場所】

札幌大学 新棟 スコーレ  
1階 8102教室

主催：北方領土復帰期成同盟 協力：札幌大学・ロシア文化センター (問い合わせ先：011-221-3340 (北方四島交流北海道推進委員会))  
ポスター・チラシデザイン：札幌大学ロシア文化ラボ КОТИК (コーチク)

## 北方四島交流事業の理解促進に係るセミナー

### 1 目 的

北方四島交流事業(ビザなし交流)は、平成4年度の事業開始以降、領土問題解決のための環境づくりの一環として日本人と四島在住ロシア人との間の相互理解の増進を図ってきましたが、令和2年度以降事業を実施できておらず、四島交流等事業※の再開は今後の日露関係の中でも最優先事項とされています。

このセミナーは、北方四島交流事業の理解促進を図る一環として、従前からこの事業に参加・協力を頂いてきた札幌大学において、写真の展示やセミナーを行い、大学生等の皆さんに北方領土問題や北方四島交流に対する関心を持ち続け理解を深めて頂くとするものです。

なお、このセミナーの開催を通じ、札幌大学におけるロシア語・ロシア文化の教育の推進に寄与できるよう取り組むものです。

※ 四島交流等事業：北方四島交流(訪問・受入)、北方墓参、自由訪問を指す。

**2 テーマ** 様々な視点から語る北方四島との交流

**3 主催** (公社)北方領土復帰期成同盟 (北方四島交流北海道推進委員会)

**4 協力** 札幌大学・ロシア文化センター

### 5 日時・場所

区分	日時	場所
セミナー	令和5年10月26日(木) ～10月27日(金)	札幌大学 新棟 SUcole (スコーレ) 1F 8102教室
写真展示	令和5年10月24日(火) ～10月27日(金)	(写真は1F通路展示スペースに展示)

**6 対象** 札幌大学 学生 等 (一般の方の聴講等も可)

### 7 内 容

**(1) 写真の展示** これまでの記録写真を展示し四島交流の様子等を紹介。

#### (2) セミナー

四島への渡航やロシア人住民との交流に参加した方などから、実体験を踏まえて、各々の立場・視点に立った講話等を頂き、参加者との質疑応答・意見交換を行います。

日時	講話テーマ・講師
10月26日(木) 13時00分～14時30分	北方領土問題と四島交流 講師 北海道総務部北方領土対策本部北方領土対策課 課長補佐 伊藤 公一
	父のふるさとへの思いと四島交流 講師 元島民2世(択捉島) 角谷 豊
10月27日(金) 13時00分～14時30分	四島交流事業の現状 講師 北方四島交流北海道推進委員会事務局 専門員 工藤 伸子
	通訳者から見た四島交流 講師 ロシア語通訳者 大島 剛

### 8 その他

セミナーの様子の写真等については、主催者のホームページへの掲載や関係機関への提供等を行うことがありますので、ご了解願います。